



本堂 外観（完成間近の状況）

Ryosho-in Temple

りょうしょう いん

良正院

ほん どう

おもてもん

本堂及び表門

京都市東山区

本堂 | 江戸時代 寛永8年(1631)

表門 | 江戸時代 前期

事業期間：令和元年6月～令和6年12月（予定）

保存修理の現場

良正院 本堂及び表門

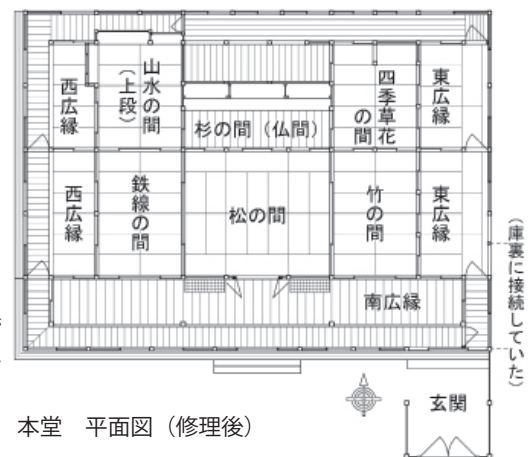
本堂

重文

《修理中》

本堂は寛永8年（1631）に建てられました。内部を6つに区切ったいわゆる方丈型の本堂のつくりで、室の外部に広縁が廻り、南面東端に唐破風の玄関が取り付いています。

建物には、非常に良質の木材が使われています。目に付く部分はヒノキ材



本堂 平面図（修理後）

良正院は、東山の山麓に伽藍を構える浄土宗の総本山知恩院の塔頭で、江戸時代の初め、寛永年間に、岡山藩主池田忠雄が、生母良正院（徳川家康の娘）の菩提を弔うために、建てたものです。

修理の内容

小屋組までを解体し、木部の修理を行いました。引き続き、耐震性を確保するため、床下など見えない部分に補強を施しました。

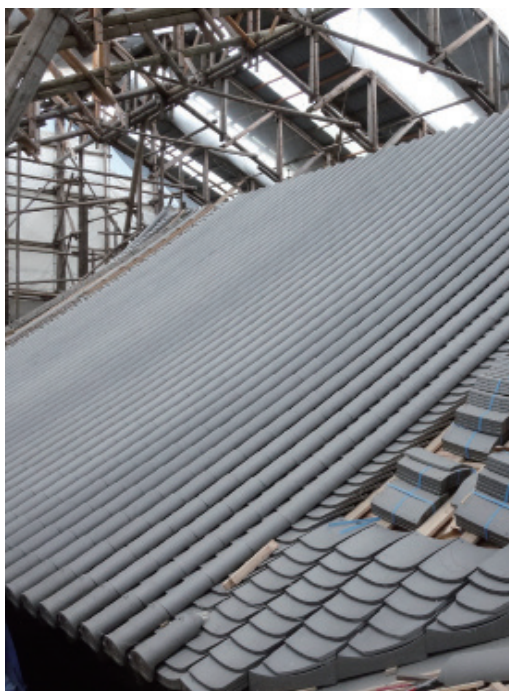
その他、襖、金物、漆塗りなど全般の修

ですが、その多くは木目の非常に緻密な材で、桁目という木目のまっすぐ通った部分を現しています。また、良正院の成り立ちを示すように、釘隠しの六葉金物や、襖の引手金物には、三葉葵が彫られています。

それぞれの部屋には、建てられた当初の襖絵がよく残っており、絵にちなんだ名で呼ばれてきました。良材を使った木太い骨組みと相まって格調高い雰囲気を感じていきます。

理をしながら、建物の組立を進めてきました。

今回の修理では、外周の戸をアルミサッシから板戸に復すなど、主要な部分を江戸時代の姿に戻しています。



本堂 瓦葺施工中の状況



本堂 小屋組立中の状況